

社会福祉法人けやきの杜

令和5年度事業報告



- P02～P03 法人本部
- P03～P04 希望園
- P04 ワークセンター・さくら
- P04～P05 食彩工房プラスワン
- P05～P06 地域共同生活支援センター・レハイム/キッピス
- P06～P07 ライフネット
- P07 カペラ
- P07 小規模多機能 むさし
- P07～P08 放課後等デイサービス ルーチエ
- P08 放課後等デイサービス 第2ルーチエ
- P09～P14 国分寺市障害者就労支援センター
- P14～P15 地域活動支援センター 虹

1 ■法人本部

2 令和5年度も中長期経営計画の5つの重点目標を中心に進めるとともに、収支改善に向けて取り組
3 んだ結果、事業による収支は令和4年度を上回りました。介護保険事業の収支改善が大きな要因で
4 はあるもののいまだ十分とは言えず、個々の事業の課題を整理してより一層経営基盤の強化に努
5 めます。

6 令和5年度より相談支援プロジェクトが立ち上がり、国分寺市や他の相談支援事業所との協議が開
7 始されましたが、国分寺市内の相談支援体制は依然として厳しい状態が続いています。令和6年度
8 から始まる第7期国分寺市障害福祉計画においても相談支援体制の充実・強化として計画(障害児)
9 相談支援を希望する全ての人が利用できる体制の構築が掲げられ、国分寺市の最重点課題として
10 今後も引き続き連携を図って現状の打破に努めます。

11 令和5年度中に身体的虐待に当たると認定された事案が発生しました。法人として本事案を重く受
12 け止めて今後の再発防止と支援の質の向上を期し、虐待防止・権利擁護委員会において協議・検討
13 されたケースについて全職員で共有しながら学ぶことにより支援の質を向上させるとともに、パート職
14 員がより会議に参加して法人の理念や事業所として目指す方向性を確認し、日頃の支援で感じた疑
15 問点や不安を相談できるような体制を整えます。

16 また、国分寺市社会福祉協議会の苦情相談窓口を通じて1件苦情を受け付けました。いただいた
17 ご意見を真摯に受け止めて誠心誠意対応するとともに、事故発生時のマニュアルを再確認して再発
18 防止に努めました。

19 ◇支援の向上

20 ワークセンター・さくらを中心とした自閉的傾向のあるご利用者に対する支援手法についての実践
21 に加え、武蔵野大学木下大生氏の協力を仰いで「ダウン症のある方への支援の構築について」の調
22 査・研究に向けた準備を開始しました。法人事業をご利用されているダウン症の方々の協力も得ら
23 れ、高齢化・重度化が進むご利用者の支援力向上に向けて令和6年度から本格的に取り組めます。
24

25 令和5年度は赤坂福祉プランニングの第三者評価を受審しました。ご利用者アンケートの結果や
26 評価機関からの講評・提案を真摯に受け止めて今後の改善にいかします。
27

28 ◇組織の強化

29 情報共有・伝達システムとして導入した「さくら連絡網」の運用範囲を拡大してご家族等との連絡手
30 段として確立しました。
31

32 ◇人材確保・育成

33 新卒採用(令和6年度入職)は全国から4名の職員を迎え入れました。今後も継続して採用活動に
34 取り組みます。

35 昇格基準の具体化や分かりやすい評価基準の策定に向けて継続的に検討を重ねます。
36

37 ◇経営基盤の強化

38 令和5年度中に新たに通所事業所(希望園、ワークセンター・さくら、食彩工房プラスワン)の利用を
39 開始した方は3人いました。食彩工房プラスワンにはまだ定員の余裕があるので、引き続きご利用者
40 の募集活動を継続します。

41 むさしも令和5年4月には15名だったご登録者が、令和6年3月には19名に増えました。引き続き
42 ご登録者募集に注力してまいります。

43 ライフネットのヘルパーは微増にとどまりましたが、令和5年度の移動支援の稼働時間は7,999.5
44 時間とほぼ目標を達成しました。
45
46

1 (法人全体に関わる項目)

理事会・評議員会	理事会 第1回6月3日(土)・第2回6月22日(木)・第3回11月4日(土)・ 第4回12月23日(土)・第5回3月23日(土) 評議員会 第1回6月22日(木)
行事	けやきフェスタ 9月23日(土) 通所ツアー 10月9日(月)～10日(火) ふれあい防災 11月18日(土)
虐待防止・権利擁護委員会	年5回開催しました。(臨時委員会を含む)
苦情解決	令和5年度の苦情解決委員会への申し立てはありませんでした。
安全管理	事故やリスクに関する情報を安全管理総務委員会で収集して再発防止に努めました。また、収集した事象に関する情報の分析結果についてグループウェアを通じて周知して再発防止に努めます。
防災対策	災害時に備えて非常食・飲料水等を3日分常備して保存期限に応じた入れ替えをしました。 自衛消防隊を編成して各事業所で避難訓練を実施しました。
個人情報保護	個人情報の漏えい、滅失、き損等の防止のため、安全性の高いシステム(クラウド)の導入や USB メモリの使用禁止等の必要な安全管理措置を講じました。
権利擁護	虐待防止委員会を開催し、身体拘束等の適正化に向けて理解の促進に努めました。
ボランティアの受け入れ 地域交流	新型コロナウイルス感染症の拡大による衛生対策のため、受け入れは必要最低限にとどめました。
法人広報・情報公開	法人ウェブサイト及び広報誌で法人事業の周知や情報を公開しました。また、法人広報誌を年3回発行しました。

2

3

4 ■希望園

5 (生活介護事業)

6 ◇高齢化・重度化するご利用者に対応したサービスの提供と小規模多機能むさしとの連携

7 ご利用者の高齢化・重度化が進んでいる現状を家族会で報告してむさしの体験利用を薦めました。
8 結果として、令和6年度に1名の方がむさしの共生型生活介護サービスを利用する予定です。さら
9 に、内部研修として【障害福祉専門職向け】の認知症の理解に関する研修を実施して高齢化に対す
10 る理解を職員間で深めました。

11

12 ◇作業プログラム及び生活プログラムの充実

13 作業プログラムは、令和4年度のプログラムを継続的に提供できるように努めました。その結果、セ
14 レオ国分寺でのキャンドル作りのワークショップを年2回実施できた一方、お仕事ネットワークを通じ
15 た作業は生活介護のご利用者には難しく受注を断念したため、令和6年度に向けて新たな下請けや
16 自主生産品の製造等が必要となっています。

17 生活プログラムは、調理する際の買い物をご利用者自身で取り組めるように工夫しました。一方で、
18 ご利用者のニーズを改めて検証してプログラムを改善する必要があると考えています。

19

20

21

1 (就労継続支援 B 型事業)

2 ◇工賃向上に向けた取組

3 ポスティング作業は地域企業からの定期的な発注が 1 件増え、令和4年度に比べて 48,000 円収
4 入を増やしました。

5 清掃作業は、受託先の建て替えの為 1 件が休止した上、法人内グループホームの清掃も減り、
6 164,000 円の減収となりました。しかし、令和6年度には休止先の再開とお仕事ネットワークを通じた
7 新規案件の受注が 1 件決まっており、収入は増える予定です。

8 全体の作業収入は令和 4 年度に比べて 112,000 円減収しましたが、就労指導員の人件費を抑え
9 たことに加えて、算出方法が変更されたこともあり平均工賃は 5,000 円増えました。

10
11 ◇就労に向けた支援

12 令和5年度も就労に向けたプログラムを実施するとともに、国分寺市役所を中心として年3回実習し
13 ました。令和5年度中の就職者はおりませんでした。令和6年度も3名のご利用者が活動を希望し
14 ており、継続して就労支援プログラムに取り組みます。

15
16 令和5年度 作業収入目標 9,054,000 円 目標月額平均工賃 25,000 円
17 実作業収入 8,821,549 円 実月額平均工賃 30,202 円
18
19

20 ■ワークセンター・さくら

21 ◇作業や生活の場面での個別プログラムの充実

22 令和5年度は作業や生活の場面でより多くのご利用者に対して活動を見直しました。室内作業を
23 得意とする方への室内プログラムの選択肢を増やして個々に合った作業を見付けるとともに、試行錯
24 誤しながらご利用者が取り組みやすい環境を組み立てました。

25 生活プログラムは、少人数での調理・造形・体操等のプログラムをより一層充実させるとともに、令
26 和4年度末から実施している和太鼓の講座の定着に取り組みました。また、プール活動を希望するご
27 利用者には、不十分ながらも東京都多摩障害者スポーツセンターを利用して取り組みました。

28 また、令和5年度はご家族等の皆様に日頃の活動を知っていただいご理解をより深めるために、
29 ワークセンター・さくら単独での家族会を実施しました。動画で活動を説明して大変ご好評いただきま
30 した。

31
32 ◇作業以外の時間の過ごし方

33 作業や生活プログラム以外の時間(休憩・昼食後等)で、次のプログラムまでの時間を持て余して
34 いるご利用者の過ごし方について、令和 6 年 2 月に社会福祉法人横浜やまびこの里の志賀利一氏
35 から再度スーパーバイズを受け、1 年間を振り返るとともに、新人職員や異動してきた職員に対して
36 ワークフローの意図を改めてご講演いただきました。

37 同じような規模でワークフローを実施している事業所を令和 5 年 12 月に見学して学んだことをい
38 かし、ワークフローを活用することで安心して時間を過ごすことができるご利用者により多くアプロー
39 チするとともに、ワークフローの課題を増やしました。
40
41

42 ■食彩工房プラスワン

43 ◇売上向上に向けた取組

44 食材事業全体の収入は増加しました。作業面でも常に作業がある状況の確立と一人ひとりが役割
45 を持って作業に取り組める環境を作りました。

菓子事業は、パンの製造・販売で収入は増加しました。菓子も新たなレシピでの試作やご利用者が関わることのできる作業工程をより増やすように工夫し収入が増加しました。更にパンの製造・販売を増やしたり季節感のある新しい菓子を製造したりして、販売経路を増やします。

◇室内作業の定着

体力面や体調面等で食材作業が難しいご利用者には、集中力の維持・向上や手先の訓練も兼ねて食材製造に係る軽作業やご利用者が自ら取り組める作業を提供しました。

就労に向けて経験の幅を広げる作業に位置付けることで、室内作業を希望されるご利用者も増えました。

◇就労希望者に対する支援

就労継続支援 B 型からステップアップを希望されるご利用者に対しては、一般就労に向けて職員の業務をサポートする経験を積みました。また、関係者と連携して合同面接会への参加や実習に取り組みました。

◇その他

ご利用者が主体的に行うミーティングを年 2 回実施するとともに、iPad を活用した作業の効率化を図りました。

令和5年度 作業収入目標	36,744,000 円	目標月額平均工賃	20,170 円
実作業収入	40,176,943 円	実月額平均工賃	25,911 円

■地域共同生活支援センター・レハイム

■地域共同生活支援センター・キッピス

◇ユニット利用率増加のための取組

令和5年度各ユニット満床からのスタートとなりました。年度途中で退寮された方が1名いましたが、それでも総利用日数は令和4年度を上回りました。ご利用者にとって各ユニットが家として認識されてきたことや、土日祝日の余暇を充実させた成果が表れました。令和6年度もより増やせるように取り組みます。

◇セキュリティカメラの導入

令和5年度はマイホーム・ほんだとマイホーム・あすかの2ユニットにセキュリティカメラを2台ずつ導入しました。セキュリティカメラを導入し、事故やトラブルによる怪我などがあつた際に録画映像を見直すことで、原因の追究や今後の対策を立てる等の検討材料とします。また、カメラに内蔵されたマイクで法人のパソコンやスマートフォンと会話が可能であり、ユニット長等からの夜勤職員への声掛けや夜勤職員からの相談に乗ることができます。それに伴って迅速な指示伝達と支援の向上が期待されます。また、カメラに撮られている意識を持つことで職員等による虐待防止や不適切な支援への防止へとつながります。令和6年度はさらに複数のユニットに導入を予定しています。

◇支援力の向上

毎月の事業所会議でケース検討及び個別支援計画案の確認・修正することで支援の方向性を統一しました。また、日々の業務においてもグループホーム拠点事務所を起点として情報を共有し、ユニット長のケースの抱え込みも防ぎました。

また、令和5年度は飲食を伴うご家族との懇親会を実施してより密接した関係性を築きました。ご家族からもご好評いただき、信頼関係の構築につなげました。

パート職員に対して研修を実施してグループホームにおける基本的な支援の在り方や緊急時の対応について講義し、支援力の底上げを図りました。

◇人材の確保

パート職員を対象とした紹介キャンペーンの実施や求人サイト等を利用して人材確保に取り組むとともに、新規に採用した職員に対してはグループホーム支援の基本を伝えて OJT を実施しました。人材の確保については、パート職員の生活環境の変化等による入れ替わりもある中で十分な充足状況とは言えず、令和6年度も継続して取り組みます。

延べ利用日数

レハイム 13,641 日(令和4年度:13,298 日)

キッピス 6,972 日(令和4年度:7,051 日)

グループホーム全体 20,613 日(令和4年度:20,349 日、令和4年度比 101%)

■ライフネット

◇新規ヘルパーを8名獲得しました。

令和5年度は新規ヘルパー20名の登録を目標としていましたが、新規ヘルパー8名にとどまりました。内訳は、移動支援連絡会の研修を通じて登録したヘルパー6名、大学での広報活動で1名、紹介1名の登録となりました。有資格者(知的ガイドヘルパー、初任者研修)は6名でした。シニア層のヘルパー登録・問い合わせは増えていますが、学生ヘルパーの登録は減少しています。学生のサークル活動等が自粛された影響により、学生との繋がりが希薄になりました。大学への出張講義等で広報活動は行いましたが、ヘルパー獲得には至りませんでした。令和6年度も既存ヘルパーの稼働率の向上と新規ヘルパーの登録を強化していきます。

◇登録ヘルパーの研修について

令和5年度はグループホームのパート研修と合同でヘルパー研修を1回開催しました。また、サービス前にヘルパーに対して支援内容の確認や引継ぎを丁寧に行い、ヘルパーとしての意識や支援の質の向上に努めました。

◇日中一時支援について

日中一時支援の利用は他のサービスを利用している方が増えた影響により年々減少傾向にあります。既存の利用者の方が安定してご利用出来るようにヘルパーの確保に努めます。

稼働実績

(1)自立支援給付(身体介護、同行援護、家事・通院、重度訪問介護、行動援護)・移動支援

令和5年度目標稼働時間 移動支援:8,000 時間 介護給付:1,400 時間

令和5年度稼働時間実績 移動支援:7,999.5 時間 介護給付:1,309.5 時間

	実績(時間)	令和4年度(時間)	令和4年度比
身体介護	81	102	79.4%
同行援護	44	118	37.3%
家事・通院	240.5	249.5	96.4%
行動援護	944.5	946	99.8%
移動支援	7999.5	7206.5	111%
合計	9309.5	8622	108%

(2)日中一時支援

令和5年度稼働時間実績 404 時間(令和4年度:659 時間 令和4年度比:61.3%)

■カペラ

◇ご利用者のニーズに合わせたサービス提供

◇居心地のよい、快適な環境作り

◇職員の支援力、質の向上及びサービスの標準化

令和5年度は、6名のご利用者として新規に契約しましたが、継続した利用は少ないため、安定して利用ができるように努めます。

令和5年度稼働目標:360 日

令和5年度稼働実績:281 日

静かな環境で過ごせる等のカペラの特徴を相談支援事業所に周知することにより、利用希望者の紹介が積極的にありました。障害が軽度の方の体調不良等でのキャンセルや、短期入所を利用しなくてもご自宅で過ごせる等の理由により継続した利用が少なかつたため、今後は継続利用していただけるよう図ります。

また、拠点事務所と同じ建物で運営することによってパート職員との情報共有や支援内容の確認が円滑になりました。

グループホーム・ライフネットと共同でパート職員研修を実施し、支援の質の向上を図りました。

■小規模多機能 むさし

◇小規模多機能型サービスの特性をいかした支援と加算(訪問体制強化加算)に適合した体制作り

令和5年度中には達成できませんでしたが、下期後半に契約した方の訪問が始まり、令和6年度に訪問体制強化加算を申請する予定です。

◇地域貢献や交流の実践と、関係機関との連携を強化した利用者獲得

令和5年度は7名のご利用者として新たに契約しました。契約のきっかけは、包括支援センターの紹介が3名、地域の介護支援専門員への営業活動による紹介が1名、その他3名です。

また、地域交流の一環として市内中学校の職場体験を受け入れました。

◇高齢知的障害者のスムーズな介護保険サービスへの移行と早くからの予防的支援を目的とした共生型障害福祉サービスの開始

新規申請の手続きを進め、令和6年4月1日から事業開始となりました。

想定延べ登録利用者数	介護保険 212 名 共生型障害サービス 8 名
実延べ登録者数	介護保険 203 名 共生型障害サービス 0 名

■放課後等デイサービス ルーチェ

◇学校や家庭とは違った、放課後等デイサービスの特徴を活かした支援

放課後をルーチェで過ごす中で、社会性の獲得を目指しました。職員との買い物同行を重ねて、一人で出かけられるようになったご利用者がいました。また、一人での通所を目指して、最初は職員が付き添いながら少しずつ一人で通う距離を延ばすトレーニングを重ね、現在は一人で通えるように

なったご利用者もいました。様々な年齢層と一緒に活動する集団活動ではトラブルが起きる可能性も高まりますが、その際はその場で一旦集まり、一緒に解決策を考えるための SST を実施して、お互いの行動を振り返る機会を作りました。

◇一人ひとりの想いやペースに寄り添った学習支援

学習は、公文式を中心に組みながらも、ご希望に応じて、学校の課題に取り組んだり、個別プリントを用意したりと、一人ひとりの課題やニーズに合わせた教材を提供しました。また、必要に応じて職員が個別に付き添って学習のサポートをしました。学習に消極的なご利用者には、一定時間座って学習に取り組むために興味を持てるような教材を準備して取り組んだ結果、少しずつ成果がみられています。また、個別スペースの利用等、ご利用者の特性を考慮した学習環境を整備しました。

◇楽しく通い続けられるような場所の確保

他事業所との関係者連絡会では、意見交換や情報共有をしました。また、学校公開ではルーチェとは違ったご利用者の様子を見ることができました。ご家族との面談や保護者会、相談支援専門員と他事業所が集まるケース会議等、積極的に他機関と連携しました。そこで得た情報は、毎日の職員打合せや事業所会議で情報を共有して一人ひとりのご利用者の生活を総合的に把握するとともに、ご利用者がルーチェを快適な居場所として過ごせるように工夫しました。

延べ利用人数(令和5年4月～令和6年3月)

目標 2,223 人

実人数 1,997 人 (定員充足率 80.9%)

■放課後等デイサービス 第2ルーチェ

◇学習支援を中心にした総合支援プログラム

第2ルーチェは学習支援をプログラムの特徴としていますが、その前後の遊びや SST 等の活動もご利用者にとって大事な学びの場ととらえています。放課後の時間の中で遊びと学習のバランスを取り、楽しく遊んだ上で学習に集中できるための時間割を作成しました。それを実践の中で刷新ことによって一人ひとりの活動の総合的な充実度を上げました。

◇学校での学習、ご家庭での学習を考慮した第2ルーチェでの学習

公文式の段階的な学習に取り組みたい方には学力に合わせた教材を用意するとともに、学校の課題やご家庭で取り組んでいる問題集等、個々の状況に合わせた学習支援に取り組みました。

◇遊びの場面での友だち関係を改善し、社会性を獲得

遊びは、人間関係のほか、コミュニケーションや社会性を学べる大事な場面ととらえています。自分の思い通りにいかない理由や相手の意見をよく聞く等、一つひとつの事柄について個別に聞き出したり集団で意見を伝え合う SST を実施したりしながら、他の人と一緒に生活していくことを学びました。

令和5年度は長期休み中の外出企画を特に増やしました。マナーを守りながら協力して行動することを経験し、様々な場面で成長が見られました。

延べ利用人数(令和5年4月～令和6年3月)

目標 2,241 人

実人数 1,731 人 (定員充足率 69.8%)

■国分寺市障害者就労支援センター

国分寺市障害者就労支援センターは、国分寺市の委託を受け、国分寺市の全面的な支援の下、地域における障害者の一般就労の機会の拡大を図るとともに、障害者が安心して働き続けることができるような就労支援を展開しました。

令和5年度は、国分寺市役所内での職場実習、特例子会社や障害者雇用で実績のある企業の見学・実習の実施、必要に応じて職業センターの職業相談や訓練校・就労移行支援事業所等の情報を提供して、ご登録者の就労に向けた準備性(※)を整えました。

雇用啓発・職場開拓では、国分寺市内の企業の方、求職している方、就職を希望している方及びそのご家族や福祉施設の支援者に向けて、障害者雇用で実績のある企業と東京ジョブコーチ支援室にご協力いただき「障害者雇用セミナー」を開催しました。また、当センターの職員が国分寺市障害者施策推進協議会・障害者地域自立支援協議会・就労支援地域連絡会に委員として参加することで、職場開拓や障害者雇用の啓発等の具体的な取組を共有する重要な機会となりました。

求職活動の支援では、採用に向けての企業見学や実習を行っている企業もあるため、求人票を出している企業はもちろん、ご登録者や関連機関等と相談しながら継続しました。また、小平市障害者就労・生活支援センター「ほっと」等の近隣市の就労支援センターと協働し、ハローワーク立川とのマッチング会議を3回開催しました。ハローワークはもちろん、各自治体の就労支援センター等とも連携を密に取りながら相互に情報を共有し、ご登録者の要望に応えられるように努めました。

令和5年度は新規ご登録者が37名となり、ご登録者数の事業数値目標290名を上回る310名となりました。しかし相談件数としては令和4年度と比較して540件の減少となってしまいました(令和4年度6,514件、令和5年度5,974件)。就職後の相談件数は257件増加したのですが(令和4年度4,618件、令和5年度4,875件)、就職前の相談件数が797件減少したことの影響が大きいと考えられます(令和4年度1,896件、令和5年度1,099件)。就職前の相談件数減少の理由としては、就労支援センター以外の就職前の支援を実施する支援機関の選択肢が増えていること、就労準備性の整っている方の多くはすでに就職されている可能性が高いこと等が影響しているのではないかと想像されます。相談内容は生活面や健康面、高齢化等多岐にわたり、関係する機関も増え、多様化・複雑化しており、就労支援以上に生活支援のニーズが増えている状況にあります。生活支援や不安解消の電話相談の場合、日に複数回、長時間となってしまうこともあります。同一の日にち、内容では複数回対応していても1件となることも相談件数減少の大きな原因と考えられます。また、企業や関係機関等への訪問の件数が令和4年度と比較して127件増加しているため、移動時間等が増加していることも原因と考えられます。

今後も、ご登録者個別のニーズ(就職・職場定着・豊かな生活等)が実現・継続できるように「企業への障害者雇用の啓発」「職場開拓」「職場定着支援」等を強化し、障害施策や福祉施策、障害者雇用施策を理解・把握して日々修練してまいります。そして、国分寺市商工会等の関係団体と連携しながら地域におけるネットワークを形成し、就職を希望する障害者のニーズに応えられるように実績・事例を蓄積します。

(※)就労に向けた準備性とは、職業生活を開始するに当たって要件を準備すること。例えば、職業生活をはじめていくのに必要な身体条件、体力、仕事に対する意識、上司や同僚とコミュニケーションをしていくための能力、必要な技術、技能の獲得等

(出典:職業リハビリテーション用語集第2版)

1 1. 事業内容

		令和5年度実績	令和4年度実績	増減	
就労面の支援	職業相談	内容	支援対象者及び家族又は事業主等からの就労全般に関する相談		
		件数	517	563	▲46
		増減の理由	就職後の相談件数は増加していますが(多くは転職の相談)、就職前の相談者が減少しているため、微減しています。		
	就労準備支援	内容	仕事に取り組む姿勢や社会性、職業能力を高める等の就労に向けた支援		
		件数	139	337	▲198
		増減の理由	ご登録者の障害発症の状況・生育歴や学歴・職歴等を詳しく聞き取り、適性・力量を把握しながら実施しました。就職前のご相談者が減少したため、減少しました。		
	職場開拓	内容	ハローワークと密に連携し、ご登録者の適性・ニーズに合った雇用先を開拓 職場実習を希望するご登録者が随時実習に入れるように協力企業を開拓		
		件数	159	381	▲222
		増減の理由	就職前の相談者が減少したため。また、職業準備性が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えており、職場開拓のニーズが低いため、減少しました。		
	職場実習支援	内容	職場実習の際の出勤前準備、職務分析及び実習援助等について、事業主等へのご登録者に対する理解を促進し、職場環境を調整		
		件数	157	254	▲97
		増減の理由	就職前の相談者が減少したため。また、職業準備性が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えており、就労移行支援事業所や職業訓練校等を紹介しているため、減少しました。		
職場定着支援	内容	就職時の労働契約の締結にあたっての支援やご登録者が安心して働き続けられるように一定期間職場内で行う支援 職場でのトラブルを未然に予防し解決するために、定期的に又は随時、面談や職場訪問等の実施及びご利用者、ご家族及び事業主等に対して行う助言や調整			
	件数	3,043	3,040	+3	
	増減の理由	ご登録者が安心して働き続けられるように、職場でのトラブルを未然に予防し解決するために、定期的にまたは随時、面談や職場訪問等を実施及びご登録者、ご家族及び事業主等に対して助言や調整等を行いました。件数はほぼ例年通りでした。			

離職時の調整及び離職後の支援	内容	離職時の事業主との調整及び諸手続 離職後の生活設計等の相談に応じて、ご登録者の状況や希望に沿った支援		
	件数	114	173	▲59
	増減の理由	令和5年度の離職者は15名と令和4年度の離職者19名から4名減ったため、件数も減少しています。		
	合計	4,129	4,748	▲619

1

		令和5年度実績	令和4年度実績	増減	
生活面の支援	日常生活の支援	内容	職業生活の継続に必要な基礎能力の維持やご登録者の日常生活のリズムの調整、ご登録者の健康管理や金銭管理等に関する相談、助言		
		件数	235	146	+89
		増減の理由	ご登録者の日常生活や健康管理、金銭管理等に関する相談が増加しているため、増加しました。		
	職業生活継続支援	内容	就職前及び就職後のご登録者の不安や悩みを解消するためのカウンセリング、ご家族や職場の同僚との対人関係に関わる相談・調整 単身生活を希望する者に対して、住まいの確保、年金等の申請、福祉サービス等の利用援助等の具体的な支援		
		件数	1,317	1,441	▲124
		増減の理由	令和4年度に不安や悩みの相談が多かったご登録者(複数名)が、ご家族や関係機関等の協力により、相談件数が減少しているため、減少しました。		
	社会生活支援	内容	休日等の過ごし方、交流の場や金銭の使い方への助言や買い物・娯楽・趣味・地域交流等多様な活動への参加の支援 本人活動等の育成・支援		
		件数	283	169	+114
		増減の理由	新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、休日等の過ごし方が活発化し、地域交流等多様な活動も再開されてきたため、増加しました。		
	将来設計自己決定支援	内容	働きながら独立を目指したり結婚等の将来設計をしたりする際の、具体的な選択肢や選択した結果に対する責任の取り方等、ご登録者の自己選択や自己決定に対する支援		
件数		10	10	0	
増減の理由		ご登録者及びそのご家族等の将来に対する不安や希望を把握し、自己選択を確認しながら実施しました。件数は令和4年度と同件数でした。			
合計		1,845	1,766	+79	

	令和5年度実績	令和4年度実績	増減	
地域開拓の促進支援	内容	障害福祉サービス事業所等における就労希望者の積極的な掘り起こしと、施設等の経営者、職員、障害者本人に対する一般就労への働きかけや意識改革		
	件数	45	16	+29
	増減の理由	就労支援事業所(就労移行支援事業所や就労継続支援 B 型事業所等)との連携を行い、微増しました。		
	内容	障害者雇用に取り組む企業への継続的な助言や支援		
	件数	203	174	+29
	増減の理由	新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い企業訪問の機会が増えたため、微増しました。		
	内容	障害者雇用に取り組もうとする職場の新規開拓		
	件数	21	27	▲6
	増減の理由	件数は例年並みでした。		
	合計	269	217	+52

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

その他の支援

- ①インターネットを活用した就労に関する情報収集及び提供
就労支援センターに係るホームページや就労に関する情報を収集し、インターネットに接続できる環境により、国分寺市民や関連機関等に対して事業内容を周知しました。
- ②関連機関・協力機関とのネットワーク形成
ハローワーク等の行政機関の職員や障害福祉サービス事業所の職員、障害者団体の代表等の関係機関、協力機関と相互に情報交換して連携を図る等の地域における障害者就労支援のネットワークの整備に努めました。
- ③障害者就労の活性化
就業への準備性を高めるための実習・研修として4名の方が職場実習を行いました。また、実習先の一つとして国分寺市役所内で実習を5回行い、16名の方が参加しました。
- ④雇用の啓発
雇用啓発に向けたセミナー等を開催し、障害者雇用の理解促進や情報提供等の啓発的活動をしました。

2. 職員体制

(1)職員体制

就労支援コーディネーター 2名(常勤 2名)
生活支援コーディネーター 2名(常勤 2名)
地域開拓促進コーディネーター 2名(パート2名)

1 (2)研修

2 コーディネーターは、各種研修会や他の職種の方との交流、発達障害・高次脳機能障害の研修等
3 のあらゆる機会を利用して、支援技術の向上を図るための自己研鑽に努めました。

4 ①新人職員研修

5 新人職員研修を実施しました。

6 ②全体職員研修

7 年間3回実施しました。

8 ③外部研修

9 延べ21回、外部研修に職員を派遣しました。

10 3. 事業数値目標

		令和5年度実績	目標値	差異
職場定着支援	件数	197	180	+17
	評価	目標を達成できました。 令和4年度の181名から、16名増加しました。以前から行っている職場定着支援を継続すると共に、就労定着支援事業所や特別支援学校、関係機関との連携を行い、職場定着できるように支援を行いました。 ※令和5年4月1日時点の利用者のうち、令和4年度以前に就職して令和5年4月1日時点で就労が継続している者のうち、令和6年4月1日時点で就労が継続している者の数(実人数)。		
登録者数	人数	310	290	+20
	評価	目標を達成できました。 令和4年度のご登録者数が18名増加しました。新規登録者数も令和4年度の31名から37名に増加していること、就労定着支援事業所からの引き継ぎが令和4年度の1件から令和5年度は7件に増加していること、登録には結びつかなかった方の相談も増加傾向にあること等を考えると、今後のご登録者は増えることが想定されます。 登録に結びつかなかった主な理由は、主治医や関係機関等の意見を確認し、就職活動を行うタイミングにあわせて登録を促すためです。また情報収集を目的とした相談も受けている影響もあります。		
就職者数	人数	16	23	▲7
	評価	(国分寺市全体として46人を目標値としている中で、就労支援センターからの新規就職者の目標値) 目標を達成できませんでした。 職業準備性(※)が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えているため、就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所、職業訓練校等を紹介することが増えています。		

12 4. 苦情対応に係る対応方針

13 国分寺市障害者就労支援センターは社会福祉法人けやきの杜が国分寺市より委託を受け運営し
14 ています。当法人では運営する施設及び事業所に関し、その運営を適正かつ健全に行うため、ご登
15 録者又はご家族等から苦情が出た場合、円滑・円満にその解決を図ることを目的に「苦情解決処理
16 規程」「苦情解決委員会設置運営規程」を設けております。就労支援センターにも苦情受付担当者を
17 置き、その仕組みのパンフレットを掲示し、利用されている方に分かりやすく、安心して相談できるよ
18 うに努めました。

5. その他

(1)就労支援センター運営委員会の開催

様々な障害者の就労支援の充実を図るために、支援事業者等による「就労支援センター運営委員会」を年4回開催し、国分寺市内での連携を図りました。また、計画的な運営を目指し、支援のあり方や職場開拓・就労支援ネットワーク構築等を計画的に実施しました。令和5年度の検討内容は「イベントに参加し、地域と交流してお互いに理解を深め合い、アンケートを実施する」でした。ご登録者及び市内就労支援事業所のご利用者と一緒にイベントにボランティアとして参加しましたが、初めての参加ということもあり、交流が限定的だったため、アンケートは実施しませんでした。アンケート実施は、令和6年度に実施を検討しています。

(2)「就労談話室」の開催

就職しているご登録者の職業生活充実を図ることを目的に、職場での不安や悩み事等を話し合って解決方法を検討・相談し合える意見交換の場として、「就労談話室」を1回開催しました。

■地域活動支援センター 虹

◇様々な創作活動や作業機会の提供等、活動の充実を図りました。

登録者の希望に応じて創作活動の機会提供を行いました。また、施設通所や就労している障害がある方が、気軽に立ち寄れ、相互交流や当事者活動、相談ができるような環境作りに取り組みました。

◇相談機能の強化を図りました。

障害者、障害児及び支援が必要な児童の保護者、障害者等の介護を行うご家族等からの相談に応じ、日常生活に必要な便宜の提供や助言を行うとともに、国分寺市や指定障害福祉サービス事業者等との連絡調整等を行いながら実施しました。

◇障害に対する理解促進や普及啓発に係る事業を行いました。

けやきフェスタ、こども作文コンクール、ふれあい応援協定に基づく総合防災訓練、市内外各イベントへの参加等を通して、障害に対する理解を促進する為の普及啓発に係る事業を行い、障害者も暮らしやすい街作りの促進を行いました。

(1)障害者相談支援業務

①福祉サービスの利用援助

様々な相談に応じ、福祉サービスの利用に係る必要な情報提供等を行いました。

②社会資源を活用する為の支援

フォーマル・インフォーマルを問わず、支援に必要な情報提供等行うとともに、各種支援施策に関する助言・指導等を行いました。

③社会生活力を高める為の支援

地域で暮らし続けられる力を身に付けることができるように様々な支援を行いました。

④権利擁護のために必要な援助

ご相談者の権利が適切に守られるように必要な支援を行いました。

⑤専門機関の紹介

相談の内容に応じ、必要な専門機関の紹介等を行いました。

⑥その他必要な支援

ご利用者のニーズに応じて必要な支援を行いました。

1 **(2)地域活動支援センター業務**

2 ①医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化の為の調整

3 地域のネットワーク作りを促進し、各関係機関との連携に努めました。

4 ②市民ボランティアの育成

5 当法人主催のけやきフェスタでボランティアを受け入れて育成しました。

6 ③障害者に対する理解促進の為の普及活動

7 当法人主催のけやきフェスタや市内外各イベントへの参加等を通して、障害に対する理解を促進
8 する為の普及啓発に係る事業を行い、障害者も暮らしやすい街作りの促進を行いました。

9 ④創作活動及び生産活動等の場の提供

10 創作活動や生産活動等の機会として、ご登録者の希望に応じて外出や茶話会等の活動を行うと
11 もに、宅配寿司の箸セット封入等の受注作業を行いました。

12
13 **(3)生活支援業務**

14 生活の基本である居住・就労・食事等、日常生活に即した課題に対して個別具体的な支援を行うと
15 ともに、生活機能や対人関係に関する指導・訓練を行いました。

16 電話・面接及び訪問等により金銭管理・対人関係・公的手続き等日常的な問題、夜間及び休日に
17 おける各々の悩み・不安・孤独感の解消を図る為の助言・訓練等を行うとともに、必要に応じて関係
18 機関への連絡を行いました。

19 障害者及びその家族等の団体が行う障害者の社会復帰に関する活動に対する情報提供を行うと
20 ともに、その活動の支援を行いました。

21
22 **(4)地域交流**

23 レクリエーション等の障害者の自主的な活動や地域住民との交流等を図るための場を提供しまし
24 した。

25
26 **(5)送迎業務**

27 虹の創作活動及び生産活動の利用者に対し、送迎サービスを行いました。

28
29 **(6)給食業務**

30 虹の創作活動及び生産活動の利用者に対し、下記の点に留意し、給食サービスを行いました。

31 ①バランスの良い食事の提供

32 栄養士による栄養価及びカロリーが計算された、バランスの良い食事を提供しました。

33 ②楽しい食事の提供

34 季節感のあるメニューを取り入れ、視覚的にも楽しめる食事を提供しました。

35 ③個別の状況に応じた食事の提供

36 持病やアレルギー等への配慮、摂食状況に配慮した食事形態等、利用者それぞれの状況に応じ
37 た食事を提供しました。

38
39 **(7)消防訓練・非常災害対策**

40 ①避難訓練

41 自衛消防隊を編成し、月1回避難訓練を行いました。また、年1回地域防災協定に基づく合同防災
42 訓練を実施しました。

43 ②災害対策

44 災害時に備えて、非常食・飲料水等を3日分常備しました。

1 (8)健康診断

2 年4回、嘱託医による問診(血圧測定、体重測定含む)を行いました。また年1回健康診断を実施し
3 ました。

4